

チャレンジ！！オープンガバナンス 2018 市民／学生応募用紙

地域課題タイトル (注1)	No.	タイトル	自治体名
		日本初の純国産デュラム小麦「セトデュール」を使った地域振興	加古川市
アイデア名(注2) (公開)	「こむぎ市」に、加古川市はなる！！		

(注1) 地域課題タイトルは、COG2018 サイトの中に記載してある応募自治体の地域課題名を記入してください。

(注2) アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

1. 応募者情報

チーム名(公開)	Code for Kobe		
チーム属性(公開)	<input checked="" type="radio"/> 1. 市民によるチーム <input type="radio"/> 2. 学生によるチーム <input type="radio"/> 3. 市民、学生の混成によるチーム		
メンバー数(公開)	9名		
代表者情報		川上 泰明	
メンバー情報	氏名(公開)	水野 あすか、三宅 佑香、生島 正、搦本 明弘、 島津 明香、川井 浩陽、石本 玲子、西谷 友彬	

(注意書き) ※ 必ず応募前にご一読ください。

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2018_応募用紙_具体的チーム名_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2018 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。 admin_padit_cog2018@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：
 - 「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY (表示) 4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC (表示—非営利) 4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。
 - (具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>)
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。(例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公表いたしません)
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。なお、内容に優れ今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイザーの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。(2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。)

2. アイデアの説明（公開）

(1) アイデアの内容、(2) アイデアの理由、(3) 実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

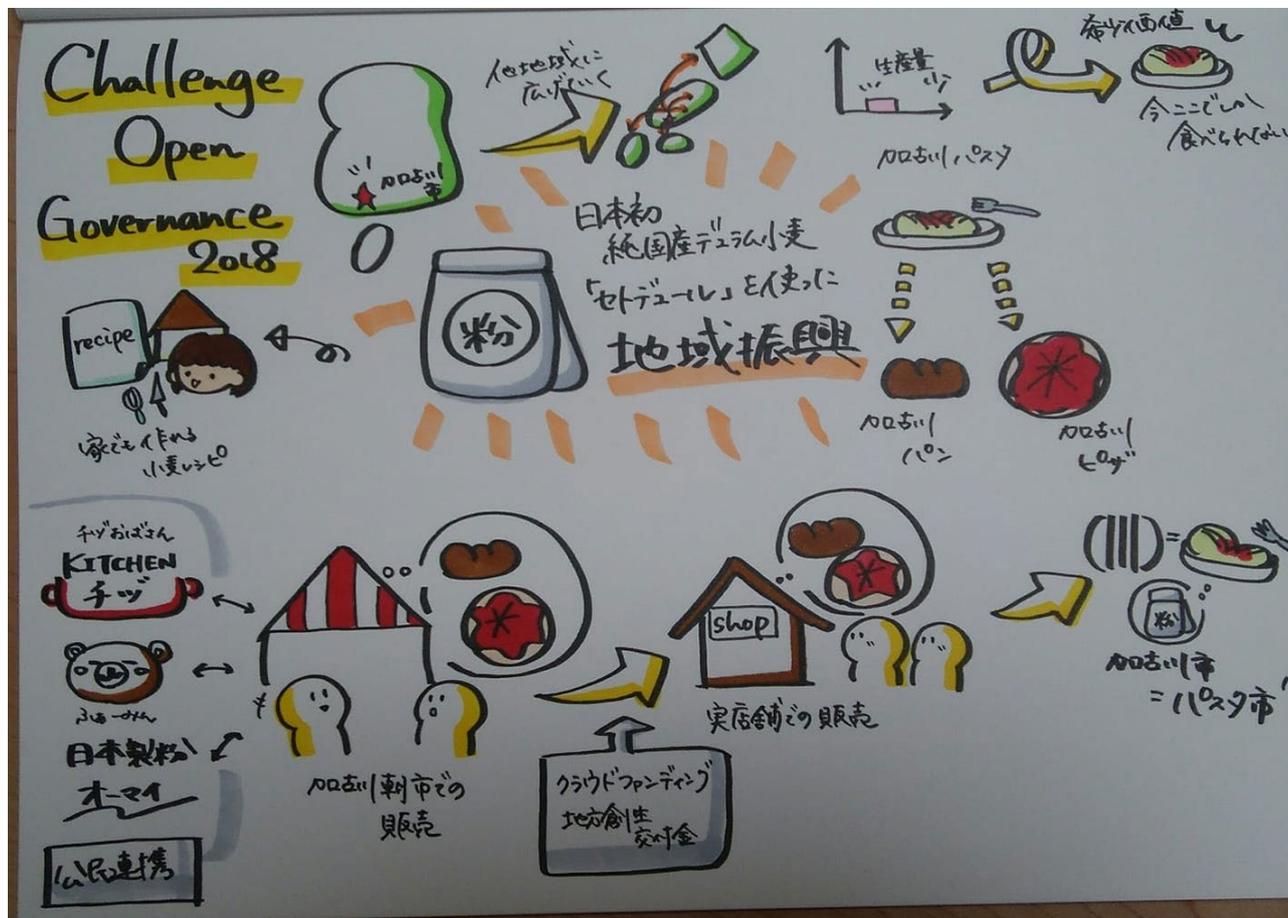
(1) アイデアの内容（公開）

アイデアは、課題解決のために、何をする社会的なサービス（活動）なのか、をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、魅力的で新規性があり、実践したり、活用したくなる、そしてその結果として、課題が解決される、そんなワクワク感のあるアイデアを期待します。2ページ以内でご記入ください。

<応募チームとして解決したい課題>

日本初の純国産デュラム小麦「セトデュール」を使った地域振興

<解決アイデアの内容>



1. 認知度の向上

加古川市で日本初の純国産デュラム小麦「セトデュール」が栽培されていることを認知してもらうため、以下のアイデアを実行する。

- a. ご当地グルメの開発
- b. デュラム小麦の料理コンテスト
- c. インスタ映えを狙う

a. ご当地グルメの開発

現在加古川市ではデュラム小麦を使った「加古川パスタ」を販売しているが、硬めの食感を活かすために、パンやピザなどの加工に挑戦し、「加古川パン」、「加古川ピザ」などの新たなご当地グルメの開発を行う。

グルメの開発後、オープンデパート朝市（加古川の朝市）などのイベントで出店し、地元のフ

ァンの獲得をするとともに、料理の改良を市民とともに行っていく。人気商品については、既存する常設店頭でメニュー化を行う。

またデュラム小麦ならではのレシピを作成し、それを開放（オープンデータ化）することで、自宅でも作れるようにし、地産地消を狙っていく。

b. デュラム小麦の料理コンテスト

デュラム小麦を使った料理を作成・提供している店舗、市民が一同に会し、来場者に料理の食べ比べを行ってもらい、グランプリを決めるコンテストを行う。ここでのレシピについても開放（オープンデータ化）し、誰もが作れるご当地グルメとしての浸透を図る。

c. インスタ映えを狙う

インスタグラムを通して、多くの人に知ってもらうように、「インスタ映え」するスポット、料理を作成していく。例えば、収穫期の小麦畑は一面金色になるため稲とはまた違った風景を見せることができる。他にも上記コンテストで撮影スポットを作成し、料理をよりキレイに撮影できるように工夫を行う。

2. 全国展開

加古川市内、兵庫県内での認知度の向上とともに、他県へのPRを行っていく。上記のコンテストは全国から参加できるようにし、レシピの情報はWeb上のカタログサイトに誰でも作成できるようにする。

ご当地グルメは、B1グランプリなどの他のコンテストに参加し、認知度を広めるとともに、加古川市が発祥の地であるとPRしていく。またデュラム小麦の生産量が少ないことを逆手に取り、季節限定、地域限定などとして、加古川市の観光資源の一つとして宣伝する。

3. クラウドファンディングの活用

資金が必要となる場面では、地方創生の交付金などを使うほか、クラウドファンディングを活用していく。クラウドファンディングを活用することで、資金はもちろん、アイデアのサポーターや顧客を獲得することができる。また話題性という観点では宣伝にもなる。

(2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ2ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類の数値データやアンケート・インタビューなどの資料や関連の計画、既存の施策などの定性データのことを総称します。データは出所を明らかにしてください。

オープンデパート朝市は週末に1900人を集客するイベントで、地元の方との交流が多く、地元特化の出店者が多いため、ファンの獲得やレシピの改良には非常に有用と考えられる。

- オープンデパート主催者
<https://www.facebook.com/okamotoatusi/posts/10217893914561260>
- オープンデパート HP
<https://www.634asaichi.com/vendor/farm>

青森県の田舎館村では田んぼアートで、多くの観光客を呼び込むことに成功している。またそのことで新たな課題が発見され、より地域活性化に繋がっている。

- 「田んぼアート」発祥の地田舎館村の地域ビジネス創出支援事業成果報告
<http://www.mlit.go.jp/common/001204026.pdf>

クラウドファンディングを利用することで、実際に実施する人、行政、賛同してくれる人、全ての人にメリットがあり、プロジェクトへの参加意識が生まれるため、まちおこしなどに有効とされている。

- クラウドファンディングを 活用したまちづくり入門
http://www.tokeikyoku.or.jp/research/doc/nyuumon-crowdfunding.pdf?fbclid=IwAR1tWEq9w51JID_XQdqM75SL9xmUJUj_dqmZF14PatJwhaXPI6ErkuxtymA
- 地域創生・地方活性化に Instagram を活用すべき2つの理由
<https://find-model.jp/insta-lab/jirei-chihou-kasseika/?fbclid=IwAR34yRQJgrmcJHDDIPWD-IUG4DVfe1VPgYd2jju0I5yzYwsZHoknw7Yj4Gc>

レシピ公開サービスを用いることで、普段使っているものへPRすることができ、また自治体と紐づけることができるため、レシピと市をセットでPRできるメリットがある。

- cookpad の公的機関レシピ
<https://cookpad.com/kitchens/official/category/4>

その他の参考資料

- 小麦の消費量…兵庫県 47 位 https://region-case.com/rank-h29-flour/?fbclid=IwAR2lecXrIR2QKDMoGrJbFzIWXAc-MKYd4wwLZ4UNihFiXpMxjA_VIHSi0xE
- パスタの消費量…兵庫県 38 位 <https://region-case.com/rank-h29-pasta/?fbclid=IwAR1G2LSrFNXBy3u8qDXJ5xmSVygvMpsTehqepEfNXsPEgek2Rad1bnBucjQ>
- パンの消費量…兵庫県 2 位、神戸市 2 位 <http://www.japan->

rank.com/article/192903241.html?fbclid=IwAR1QcbZQqhf4IQgiGKcGEDwb17f310ru4_By9yFsC4TuiHltSiDtzdF9kME

- パン屋の数…兵庫県 2 位
<https://camelia.co.jp/magazine/book/85?fbclid=IwAR1ZJ99Tlv6hDGMsA7BJUerPxZRZGCSIFC-7bmxkHomzYEUo8Cjlg1PnFEo>
- 麺類の消費量…兵庫県 3 位 https://region-case.com/rank-h27-noodle-shop/?fbclid=IwAR1xYnN3UBWykeEaiWXAbfbTGCGVW9zONEV3O0Y87998NbfivBQmarHy_ss
- うどん・そばの消費量…兵庫県 33 位 <https://region-case.com/rank-h29-udon/?fbclid=IwAR2PiscgcLFf78Axcg5gK9rLDVxEVTTTP5YDViQOBFJrHdZnwsQumJFt8y29Y>
- 加古川市総合計画
<http://www.city.kakogawa.lg.jp/shiseijoho/kakogawashinoseisakuzaisei/kakogawashisogokeikaku/1412742858838.html>
- 国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構
http://www.naro.affrc.go.jp/publicity_report/press/laboratory/warc/062694.html
- 月間現代農業
<http://www.ruralnet.or.jp/gn/201802/komugi.htm>
- 農林水産省
http://www.maff.go.jp/j/pr/aff/1606/mf_topics04.html
- 農事組合法人 八幡宮農組合
<https://blog.goo.ne.jp/yahataeinou/e/a01849db0eae0adb709117f772409e45>
- 日本製粉株式会社
https://ssl.syncsearch.jp/search?site=CG68245G&design=1&group=0&charset=shift_jis&query=%83Z%83g%83f%83%85%81%5B%83%8B
- 加古川市オープンデータカタログサイト
<https://www.opendata-kakogawa.jp/>

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。

1. 加古川市役所

市内の小麦畑に、インスタ映えする写真を撮るための台を設置。

ハッシュタグ「#こむぎ市 #かこがわパスタ #金色の畑」を推奨して、金色の畑の聖地化を図る。某アニメーション映画を想起させるが、そこには敢えて一切触れない。



日本製粉・オーマイ・チヅおばさん・ふぁ〜みんな SHOP 風雅亭をサポート。

行政情報ダッシュボードを活用した情報発信による支援を検討。

「パスタ市」が配達先住所として認められるように調整するなど、交流人口の増加を図る

将来的には、小麦を生かした地元小学生への生活の授業で農業体験を展開することにより、地場産業への理解促進を図ることも想定



2. Code for Kobe

加古川市、Code for Harima と連携し、民間企業（料理店・クラウドファンディングなど）も交えたプロジェクトチームを設立。



加古川パスタ・パン・ピザに関する各種データやレシピ登録サイトの構築支援

クラウドファンディング開催

ドローンを活用した金色の畑の PR に関する支援

3. 日本製粉・オーマイ・チヅおばさん・ふぁ〜みんな SHOP 風雅亭

セットメニューを用いた加古川パン・加古川ピザの作成にチャレンジ。

民間事業者が実施する朝市で加古川パスタ・パン・ピザを販売。

(11月24日開催オープンデパート朝市拡大版来客者1,900人、主催者発表)
実店舗での販売を実現。

4. その他民間事業との連携

日本郵便

「こむぎ市」が配達先住所として認められるよう、ご当地「仮想住所」の実証実験を加古川市で実施する

※総務省において平成31年度に予算概算要求で新規事業として要求されている「郵政行政の推進：郵便局活性化推進事業（郵便局×地方自治体等×ICT）」事業の活用を検討する
(http://www.soumu.go.jp/menu_yosan/jigyoku30/youkyu/youkyu_h31.html)

5. 地元ツーリスト

小麦畑、工場、パスタ屋さんをめぐるかこバスツアー敢行

6. 加古川市民

クラウドファンディングで支援（※市外からもあり得る）

セットメニューを使った料理コンテストで審査

料理コンテストで小麦料理コンテスト